

## ☆四日市市立保々中学校区の取組



### ◆事業概要

#### 1 中学校区の現状と課題

保々中学校区の子どもたちの実態をみると、なかまのことを真剣に考え、思いやりがある反面、自分の思いを伝えられない、つらいことからすぐに逃げ出してしまふ、いろんなことに挑戦する力が弱い等の傾向が見受けられます。このような課題から、一部の子どもに学習に対する消極的な姿勢や、学校生活で不安定な様子が見られ、中には不登校になる子どももいます。さらには、早期離職や高校中退等、地域に住む青年の課題につながっていると考えられます。

このことを受けて、子どもたちの課題解決のための『保々中学校区18年間(社会へ)の育ちのプログラム』を作成し、子どもたちが社会に出たときのことを思い描きながら、人権の視点を重視した保々地区のキャリア教育にこれまで取り組んできました。そして、子どもたちにつけたい力を「6視点【だいすき】【つながる】【じっくり】【やってみる】【すこやか】【まなぶ】」として整理しました。

子ども支援ネットワークを構築するにあたっては、子どもの現状や課題を共有し、自分たちの取り組んでいる活動が、教育的に不利な環境のもとにある子どもにとってどのような意義を持つかを「6視点」と照らし合わせ、それぞれがどのように係わりを深めていくべきかについて考え合いました。加えて、課題解決のために地域住民のネットワークをさらに広げ、取組を創り出し、子どもの自尊感情と学習意欲を向上させていこうと考えました。

#### 2 課題解決のための主な取組

##### (1) 日常生活の中で「6視点」を意識し取組を進める

日々の生活においても「6視点」を意識し、全ての大人が子どもたちに係わるようにしています。そして、大人が「子どもたちを心から大切に思っていること」や「一人ひとりに期待していること」等の思いを、多様な活動を通じて伝えました。こうした様々な取組から、子どもたちは自信を深め、じっくりと粘り強く取り組めるようになりました。



地域に掲示される「6視点」

##### (2) 人々のつながりの中で (一例)

###### ①保々地区フェスティバル (人権プラザ小牧文化祭)

子どもたちが、人権プラザで人権劇や学習の発表を行いました。「6視点」を大切にして取り組んできたことを、学年ごとに発表しました。参加した保護者からたくさん拍手をもらい、子どもたちは自己有用感を高めることができました。



###### ②農業体験・自然体験

「保々地区自然と親しむ会」が小学生とともに、田植えやサツマイモの苗植え、大豆づくりから行う無農薬とうふ作り等を行いました。「6視点」の【つながる】【やってみる】【まなぶ】を大切な視点としました。

地域住民が子どもたちに、おいしい米作りにかける思いや食べ物を大切にすること、さらには地域を大切にすること等の思いや考えを話しました。地域住民の「上手に植えるね」や「がんばって植えたね」等の声かけに、「おじさんに上手だとほめてもらってうれしかったです。」と感想を書いた子どももいました。様々な体験活動は、子どもたちの自信につながるとともに、安定した学校生活を送れるようになり、体験したことを授業中積極的に発表したり、まとめたりする等、自ら進んで学習する姿勢が見られるようになりました。

保々地区フェスティバル



田植えの様子

### ◆実践を振り返って

保々中学校区で行われる様々な取組を通し、学校・家庭・地域が一緒になって、子どもたちを褒めたり励ましたりしました。このことにより、友だちに自分の思いを伝えたり、何事にも根気強く取り組んだりすることができるようになりました。また、子どもたちは大人から大切にされていることを感じ、自尊感情や学習意欲を高めることができました。

今後も、子ども支援ネットワークの取組をさらに充実させていきたいと考えています。